

第26期 第1回常任理事会議事録

日時：1990年9月12日 13：30～19：30

場所：気象庁 総務部会議室

出席者：浅井，小倉，竹内，木田，村上，青木，安富，
松原，佐藤，中村

議事

A. 報告事項

1. 第25・26期新旧理事・監事合同会議議事録及び第26期第1回理事会議事録は一部修正の上承認された。

2. 各委員会報告

「庶務」主なものは次のとおり

・後援依頼 第5回「大学と科学」1991年1月29日
経団連ホール

・気象学会中部支部第9期役員

支部長：山岸米二郎

理事：田中 浩，渡辺正夫，岩坂泰信，田平 誠

・第26期役員登記(東京法務局)を9月5日に行った。

「会計」

・7月の収支について資料説明があった。

・預金についてはより高利回りの預金を検討する。

「天気」

・9，10月号の内容予定の報告があった。

「気象集誌」

・68巻5号は10月に発行，論文は9編

*Note 及び Paper の編集・査読方針について

1. Note のコンパクトな性格を保持するため，投稿時に(A4ダブルスペース本文枚数+図面数)が20を越えるもの(印刷で約7頁)は Technical Rejection とし，内容の査読を行う以前に編集委員長により著者に返却して圧縮を求める。

2. 上記の基準を満たす投稿については，担当委員がレフェリーを依頼する際，2週間以内に査読を終了して返送するよう明記する。

3. 本論文についても長さの基準を設ける。(A4ダブルスペース本文枚数+図面数)が75を越えるもの(印刷で約25頁)は Technical Rejection とし，内容の査読を行う以前に編集委員長により著者に返却して圧縮ないし分割を求める。

「通信メディア」

・電子掲示板の解説を「天気」会員の広場に掲載することを検討する。

「気象研究ノート」

・170号(気象災害)9月下旬に発行予定

「教育と普及」

・夏季大学の参加者はほぼ例年並の78名で予定どおり終了した。

「講演企画」

・秋季大会の講演数は230，予定どおり進行している。発表に最近ビデオ利用の要望があるので学会として今後整備の必要がある。

・国際地球物理金沢会議は参加者1,000人，気象関係約40人で予定どおりの規模で充実した内容となった。

・研究連絡会が発展的に充実した会となるよう学会のサポートが必要である。オゾン，雲物理，気候変動など自発的に組織化していく機運がある。

「計算機利用選考委員会」

・部外の計算機利用募集の応募があり，学会推薦を必要とする場合，理事会の中に選考委員会を作って対応することとした。

「IAMAP」

・IAMAP の予定会場(横浜パンフィック国際会議場)の建設現場・環境などの紹介があった。

「賞」

・「山本・正野論文賞」及び「堀内基金奨励賞」の候補者の投票結果が報告された。

「日本気象学会の案内」

・総会で決定した新会員制度に基づいた，案内が紹介された。

「会費等の新納入方法」

・住友クレジットサービスと気象学会はクレジットカード(VISA)利用による会費の支払いについて9月10日に契約をした。今後，国内外の住友 VISA・MASTER カードの会員は会費，その他についてカード利用による納入が可能になる。(天気10月号紹介の予定)

「理事長」

・国際防災10年の国民会議(IDNDR)が8月27日に竹橋会館(千代田区大手町)で開かれ出席した。(会長は近藤次郎日本学術会議会長)

B. 審議事項

1. 会員の新規加入などについて次のとおり承認され

た。

新規加入 個人25名 退会 団体1, 個人15名

2. 第26期の委員会の構成について

各委員会の担当理事から報告のあった委員会の構成員について審議の結果, 第26期の各委員会の構成が決まった。

3. 評議員について

第26期の評議員について総合計画委員会から検討原案が提示された。審議の結果, 原案にもとづいて各候補者に就任依頼をすることになった。

4. 奨励金受領候補者の選考について

奨励金選考委員会から候補者について報告があり一部修正の上承認された。細則にもとづく全理事の無記名投票を行うことになった。

また, 奨励金選考委員会から, 日程を2カ月早めること, 募集方法の改善教育関係選考委員の選出の改善について提案があり承認された。

5. 会員データベースの構築に関する契約について

- ・会員データベースの構築に関する仮契約書について説明があった。(気象学会と UAP の仮契約書添付)

主な機能: 「入退会, 住所管理」「購読誌の管理」「会費請求」「学会発行の各誌の発送ラベルの出力」「各誌の在庫管理」等の

事務処理

なお, 一般的なデータベースの構築と今後の機能拡張について活発な審議が行われ, 中村, 佐藤, 松原, 村上各理事が今後の機能のあり方を検討して行くこととした。

6. 1991年度予算案・事業計画案について

第2回理事会(京都)に提出する原案作成のため, 特に新規の計画について各委員会の案の提出が求められた。

7. 学術法人法(仮称)等の制定について

社団法人「日本工学会」から学術団体の保護育成, 科学者の優遇等の法制度の制定について呼掛けがあり, 主旨説明があった。

審議の結果, 気象学会としてこの主旨に賛同の方向で回答することとした。

8. 「地球惑星科学関連学会連絡会」への参加について

同連絡会から参加呼掛けの案内があり総合計画を中心に検討した結果が紹介された。審議の結果, 合同大会に全面参加は気象学会としては困難なことが多い。しかし, 関連学会が情報交換のため連絡会を持つことは賛成である。発表会には, 気象学会として共催が適当なセッションには参加することとする基本方針が決まった。また, 連絡会には参加することとし, 分担金の負担も承認された。

編集後記: また編集に携わることとなりました。この3年の間に委員の半数が若手に代わり, 皆さんの元に新しい息吹をお届け出来るのではないかと思います。

今年の夏は連続して3個も紀伊半島へ上陸するなど, 台風についての話題に事欠かない年でした。予報課の太平洋台風センターは台風特別実験(SPECTRUM)実施のため8月から9月にかけて忙しい毎日でした。強化観測は6個の台風について延べ17日間実施され, 国内15地

点の高層臨時観測回数は458回に達しました。宮古島では台風17号の通過で大きな眼に入り, オメガゾンデ観測にあたっていた気象研究所のスタッフが, 蚊の大群に襲われるという特異な経験をしたとの報告もありました。本実験は12月に開かれる「台風特別実験評価会議」を経て, 集められたデータの分析等, 台風予報技術の向上を目指す研究段階に入ります。これらの成果が「天気」誌上にも登場することを期待したい。(Y. Y.)